

御茶ノ水子ども医療総合ネットワークからの報告

(注 () 内は実際の年報には記載されません。)

(病院名：) 川口市立医療センター

(科名：) 新生児集中治療科

(執筆者の役職：) 部長

(執筆者の氏名：) 箕面崎 至宏

(冒頭のメッセージ)

すべての赤ちゃん達が、未来に向かって羽ばたいてほしい。

(学会の認定施設)

日本周産期・新生児医学会 新生児研修基幹施設

1. 病院概要

赤羽から荒川を渡ると、もうそこは川口市。埼玉都民がほとんどのベッドタウンです。川口市立医療センターは、川口市のほぼ中央にあり、グリーンセンターに隣接し、緑あふれる場所に立地しています。地域医療支援病院、埼玉県南部地域の基幹災害医療センターとして、診療科数 17 科 539 床を有し、地域の基幹病院としてプライマリ・ケアから三次救命救急、高度専門医療まで広範な医療を展開しています。新生児集中治療科は、埼玉県南東部をカバーする地域周産期母子医療センター（産科 30 床、NICU30 床：NICU 加算 9 床+GCU21 床）の NICU 部門として診療を行っています。

2. 科の特徴

入院

当院産科は、常勤 6 名体制に戻り、周産期産科専門医も 3 名となっています。週 1 回産科新生児科カンファランスを持っています。県内 2 つの総合周産期センターと役割分担しながら活動をしています。しかし、当周産期センター担当の埼玉県南東部地域では、戸田中央産院、永井マザーズホスピタルといった年間 1000 分娩以上規模の産科施設や、様々な公的病院の産科を受け持っており、超早産の切迫早産、前期破水などの母体搬送受け入れ、妊娠高血圧症候群、甲状腺機能異常などの合併症妊娠、多胎（双胎、品胎）妊娠などの外来紹介は、引きもきらず依頼があります。平成 30 年は分娩数 625、多胎 33、緊急母体搬送 58 でした。また、在胎 35 週以上で出生体重 2000～2500 g の late preterm の低出生体重児であっても、呼吸循環血糖などが落ち着いていれば、当科管理の下、産科病棟で母児同室を行っています。平成 30 年度のその数は 71 名でした。また、重症児の出産が予想される場合、新生児科医が両親に対し prenatal visit を行っています。

新生児集中治療科（NICU・GCU 病棟）への入院は 220 名、母体搬送からの入院 60 名、極低出生体重児は 36 名（超低出生体重児 10 名）でした。挿管人工呼吸管理 53 名、全身麻酔手術症例は 13 例（新生児症例 5 名）、眼科光凝固術 2 例、死亡退院 2 名（剖検 0 例）でした。

小児科循環器、内分泌医なども併診に来棟され、眼科眼底検査回診や整形外科医、理学療法士の回診もあります。



外来

当科を退院した児のフォローアップ外来を月・水・金の午後行っています。極低出生体重児の学齢期までのフォロー、在宅医療児の支援、母乳育児支援などを行っています。気管切開、在宅酸素、在宅人工換気などの在宅医療を必要とする患者の増加もあり、小児科と密接な連携のもと、診療を行っています。また、発達評価や心理面でのフォローを臨床心理士3名にお願いしています。

3. スタッフ

スタッフは常勤医8名（うち当直オンコール免除2名、産休育休1名）、特別研修医（後期研修医）3名で、加えて非常勤1名（週4日勤務）、2名（週1日）です。防衛医大や埼玉民医連、地域医療振興協会などから、不定期に短期長期の研修派遣があります。その他発達評価を行う非常勤臨床心理士3名です。

4. 教育・研修の特色

当科は日本周産期・新生児医学会の新生児研修基幹施設に認定されており、2018年度には当科出身の周産期（新生児）専門医は8名となり、各施設で活躍中です。また現在4名が研修中です。

当科では、小児科医として必要な正常新生児の管理から最重症児の呼吸循環栄養管理まで、幅広く研修することができます。また、小児外科、脳神経外科、形成外科などとの連携において、新生児外科疾患の術前術後管理を研修することも可能です。循環器外科疾患に関しては、小児循環器医の指導の下、診断、急性期の治療を開始し、stabilize後に循環器専門施設（榊原記念病院、県立小児医療センターなど）へ搬送しています。

また、東京医科歯科大、防衛医大、筑波大などの医学生実習、その他埼玉県立大学、川口市立看護専門学校などの看護助産学生実習などの研修指導教育に協力しています。

5. メッセージ

みなさんボッチャというパラリンピックスポーツをご存じでしょうか？当科の卒業生が、オリンピック代表候補になっていたことがあります。また、脳性麻痺でも、一本指奏法でピアノを弾きこなしCDを出した卒業生もいます。NICUの退院児は、頭蓋内出血、脳室周囲白質軟化症、先天性筋緊張性ジストロフィー等々、車いすやバギー生活を余儀なくされていた

り、気管切開、在宅人工換気、在宅酸素療法、胃瘻などの在宅医療を行いながら生活している子ども達が少なからずいます。そういった児にも、ごくごく普通の生活やスポーツ、レジャーなどを楽しんで貰いたいと思いますし、そういう世の中になっていくように願っています。

6. 業績など

忙しい業務と並行しながら、論文掲載は、医学雑誌 2 編、学会発表は、全国学会 8 題、埼玉地方会など 8 題発表しました。

2018 年度スタッフ紹介 ○小児科専門医 *医局外

氏名	身分	卒業年	専門領域	学会役職など
○箕面崎 至宏	部長	平成元年	新生児	小児科専門医、周産期専門医・指導医、小児科学会埼玉地方会理事、日本新生児成育医学会評議員、日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会評議員、NCPR イン

○森丘 千夏子	副部長	平成13年	新生児	ストラクター 小児科専門医、IBCLC、NCPR インス トラクター
○佐藤 千穂*	医長	平成17年	新生児	小児科専門医
○伊藤 一之		平成21年	新生児	小児科専門医、NCPR インス トラクター
○早田 茉莉		平成22年	新生児	小児科専門医、IBCLC、NCPR インス トラクター
○宮原 宏幸		平成24年	新生児	小児科専門医
○勝屋 恭子		平成24年	新生児	小児科専門医
野口 優輔		平成25年	新生児	NCPR インス トラクター
藤田 華子		平成27年	小児科一般	
高井 詩織		平成27年	小児科一般	
金子 千夏		平成28年	小児科一般	

卒後3年目以上の医師のみ掲載